

シエムリアップ Moi Moi ライフ

ISSUE
III

「Moi Moi」とはクメール語で「ひとつずつ、ゆっくりと」の意味。恵み豊かなカンボジアでのスローライフをお届けします。



小出 陽子 (Yoko KOIDE)

1992年早稲田大学大学院卒。一級建築士。2000年、UNESCO/JSA 遺跡修復オフィス建設のため、カンボジアに赴任。2005年シエムリアップにレストラン Cafe Moi Moi をオープンする（一時休業中）。同年JST (NGO: アンコール人材養成支援機構) を設立し、農村地域の支援活動始める。2013年“アンコールの都の西北”に公立のバイヨン中学校を創設。2019年には高校も併設され、現在、全校生徒820人の学校運営を行っている。

● JST ホームページ
<http://www.jst-cambodia.net>

バイヨン中学校先生方の コロナ禍副業

コロナパンデミックによるカンボジアの学校の一時休校開始後、バイヨン中学校の生徒たちは、先生が作成したプリントやオンライン授業を基本に細々と自主学習を続けていました。先生方も当初は毎日学校に来て新たな学習方法を模索するなどしていましたが、あれから早くも10カ月…。結局、9月から再開された学校授業では、登校できるのは中学3年生のみだったこともあり、学校で見かける先生も少なくなっていました。

先日、先生方に休校期間中に何をしていたのか尋ねてみると、市内に住む先生は、副業として新たな商売（自宅前での小売業など）を始めたり、町の子供たち対象のオンライン塾講師を務めたり…。バイヨン中学校の教員宿舎に住む若い先生は、校門前の通りに小さなスタンドを建て、コーヒーやジュースの販売を行っています。そして、ほとんどの先生は自宅で野菜栽培や養鶏を始めました。



校門前でドリンクスタンドを始めたりリン先生

カエルの養殖に挑戦し、商売として軌道に乗り始めているという先生もいましたが、鶏糞を入れた堆肥で野菜を栽培し、鶏の卵を孵化させヒナから鶏まで育て、最終的には売りに出すという、オーガニックな農作物や畜産物を生産し、さらにそれを商売に結び付けるところまで実践しようとしている先生が多く、驚きました。さすがバイヨン中学校の先生方！カンボジア農村部の教師として、生徒たちに一番に伝えたい「自立」への姿を自らが実践しています。

新学期は1月11日に始まりました。今年度の生徒数は820人となりますが、教育省から派遣される先生は相変わらず13人のみです。これだけの先生で果たして授業が成り立つのか…。不安はありますが、コロナ禍の休校中に英気を養った先生方がこの難局を果敢に乗り越えて歩み続けることを願い、私も微力ながら応援していきたいと思っています。